



TITLE:

附属図書館商議会

AUTHOR(S):

CITATION:

附属図書館商議会. 静脩 1971, 8(2): 2-2

ISSUE DATE:

1971-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36656>

RIGHT:

第40回近畿地区国公立大学図書館協議会

〈とき：昭和46年5月7日 ところ：神戸商船大学〉

当番館神戸商船大学西沢館長が議長となり、前年度の各種報告および委員会報告のあと、議事に入り、本年度の事業計画案が審議された。この協議会の活動としては、委員会活動と研究集会活動があるが、委員会としては、前年度同様、企画、業務機械化、参考図書の3委員会が活動を継続することになり、とくに、企画委員会は常置の委員会として、その内規が承認された。研究集会活動としては、施設、業務省力化、参考業務の3つのテーマについて実施することになり、計画の具体化は企画委員会が担当することになった。

国立大学図書館協議会総会

〈とき：昭和46年6月2日～4日 ところ：岩手大学附属図書館〉

協議会の本年度総会が、新築の岩手大学附属図書館を会場として、3日間開催された。初日午前中の一般報告につづいて、午後は、司書職制度、業務機械化、図書館施設、参考図書の各研究調査班から詳しい報告があり、討論を行なった。2日目午前中は研究集会。テーマは前年度にひきつづき「新しい大学図書館像」。とくに今年は、相互協力と予算の面からアプローチを試み、一橋、名大、九大から、それぞれ報告があり、討論を行なった。午後は、例年通り人事、予算、奉仕の3分科会に分れ、各地区から提出されたそれぞれの議題の討論を行なった。3日目は、3分科会からの報告と、総括の討論を行ない、盛りだくさんのスケジュールを消化して無事総会の幕を閉じた。

附属図書館商議会

昭和46年6月29日

本年度最初の商議会が、「商議会専門委員会報告」を中心として開催された。審議に先き立ち、前年度の蔵書、増加図書統計、利用統計、決算報告等一般報告が行なわれた。

専門委員会の報告書は、前年度いっばいをかけて取りまとめられたものであるが、図書館長の位置づけの問題、京都大学のライブラリ・システム、および図書館業務への電算機の導入の3点にしばって、問題点をまとめたものである。この報告書を図書館としては十分に尊重していくとともに、今後その具体化に努めていかねばならない。

その他、学内における図書相互利用書の使用に関する申し合せ、地磁気世界資料室運営委員会内規の一部改正も行なわれた。

フランス大使館より300冊寄贈

人文科学研究所に保管

革命記念日を祝うパリ祭と夏を色どる祇園祭の様子が手に取るようにテレビの画面に流れるとき、明治以来深まってきた日仏間の交流が茶の間にまで忍び込んできているのを知る。地理的に離れた長さを、歴史、社会思想や政治、経済、文化を通じて縮めていこうと、去る7月5日、それらに関する仏語の専門書300冊が駐日仏大使館より京大に贈られ、文化参事官ギューセ氏から前田総長に手渡された。その中には、国際金融問題やモンテスキュの法的精神、第一次第二次世界大戦史、ベトナム戦争、仏史や辞書等が含まれており、保管することになった人文科学研究所では共同研究その他広く、特に若い学生との交流、親善を深めたいという大使館側の御要望にも添うよう、利用されることを望んでいる。